

JAL の不当解雇が世界の問題に

ILO は「JAL の不当解雇は重要かつ急務」との認識で対応

代表団の一員として ILO 本部を訪問し、原告団の熱い思いを背に、日本航空の「整理解雇」の不当性や問題点を結社の自由委員会の担当者に直接訴えた森さん、飯田さん、石賀さんの感想を紹介します。

遠いようで身近な存在 = ILO と ILO 条約

客乗原告団の森さん(写真): 東京社会医学研究センターの村上理事、牛久保弁護士、ILO 条約を批准する会の皆様、そして 20 年近くも ILO を活用して来た郵産労、ITF 東京事務所の皆様や ITF 加盟労組の仲間と、大変多くの方々からのお力添えを得ながら、ILO への取り組みを始めていました。当初からお力添えを頂いた方々からは「ジュネーブに行かなくては!」と言われていました。実現してみると、訪問団の重責を感じつつも、「ILO と ILO 条約は遠いようで身近な存在」であり、ILO は「労働者のための組織」であるということに確信を持ち、実感しました。まずは不当解雇も問題解決に邁進! ですが、ILO 第 1 号条約をはじめ、ひとつでも多くの条約を批准させる努力をしつつ、ILO をもっと活用する視点、国際活動に今まで以上に力を注ぐことが、労働者としてそして人間としての「労働する喜び」を獲得する力になると痛感中です。



ITF、IFALPA の支援が大きな力に、世界の労働者との連帯が大切



乗員原告団の飯田さん: 今回の ILO への取り組みは、日本航空という日本の一企業の解雇問題が世界の問題になった瞬間でした。対応してくださった ILO の担当者は、あまりに強引な「解雇」に対し、大きな驚きを示し、全面的な協力を表明してくれたのです。

忘れてならないのは、ILO の取り組みに対し、ITF、IFALPA という労働者の国際組織が全面的な支援を表明し、正式な支援文書を提出して下さったことです。ITF、IFALPA の支援は ILO を動かす大きな力となっていること

を実感しました。私たちは ILO への働きかけをはじめ、世界中の労働者とも連帯し運動を続けていくことの大切さを確認したいと思います。【写真】: 左が飯田さん、となりは宇賀地団長(日本航空乗員組合 委員長)

世界平和の実現と貧困の一掃、社会正義の実現のために!

客乗原告団の石賀さん(写真): ILO に私たちに思いを直接訴えることができ、本当に良かったです。ILO のメンバーは私たちの訴えを真剣に聞いてくださいました。必ず是正勧告につながるものと確信します。今後は、行政への働きかけが求められてきますので、政治に無関心でいられないと思いました。なぜなら、ILO は政府・労働者・使用者の代表が同じ一票を持って参加しており、勧告は日本政府に対して出されるからです。

ILO の担当者から寄せられた以下の言葉が、今も心に響いています。

- ◆ILO は「世界平和の実現と貧困の一掃、社会正義の実現」のために創設された!
- ◆「平和」と「正義」です!

